

# 拠点自己評価報告書 （政策研究大学院大学 科学技術イノベーション政策研究センター）

令和7年12月24日

## 1. 事業の概要

(センター発足からSciREX第2期までの経緯)

- SciREX事業の基盤的研究・人材育成拠点が行う研究活動の総体として中核的拠点機能の中心的役割を担う機関として科学技術イノベーション政策研究センター（SciREXセンター）が、総合拠点の置かれていた政策研究大学院大学（GRIPS）に平成26年8月に設置された。平成26年度からはSciREXセンターで3領域（政策デザイン領域、政策分析・影響評価領域、政策形成プロセス実践領域）の研究が行われた。SciREX第2期にはセンターにおいて、「人材育成」に関しては、拠点・関係機関の連携による行政官研修やコアコンテンツ策定、サマーキャンプの企画運営等を、「研究・基盤」に関しては、重点課題に基づく研究プロジェクト（平成28年度～30年度）、共進化実現プロジェクト（令和元年度～2年度）等の推進及び、共進化実現プログラム（第2フェーズ）に向けた準備に文部科学省と協働して取り組み、「ネットワーキング」に関しては、運営委員会の開催、フォローアップ調査、事業成果とりまとめ、SciREXロジックモデルの作成等を通じたコミュニティ内のネットワーキング、及び、オープンフォーラム、SciREXセミナー等のアウトリーチ活動に取り組んだ。「共進化」に関しては、行政官研修の実施や、対話の場の開催等を通じた共進化実現プロジェクトの円滑な実施への貢献、各種の取り組みへの政策リエゾンの登用等を通じて、共進化の基盤となる人材育成やネットワーク構築、政策形成への貢献に取り組んだ。さらに、その他として、対話の場の設定やロジックモデルの作成等を通じて様々な取組の有機的連携を図り、SciREX事業全体へ貢献した。

(SciREX第3期の活動)

- SciREX第3期においてセンターは主に以下の活動に取り組んだ。
- (1)人材育成に関しては、センターはコアカリキュラム編集委員会の事務局を務め、コアコンテンツの編纂・活用の促進、現役の行政官を対象として「行政官研修」を各拠点等の協力を得て文部科学省とともに実施した。また、拠点間共同プログラムとしてサマーキャンプを実施した。(2)研究・基盤に関しては、共進化実現プログラムの円滑な推進のため、その運営をセンターが文部科学省とともに担当した。(3)共進化に関しては、行政官研修の実施、共進化実現プログラムの運営に加えて、我が国における科学技術イノベーション政策を対象とした EBPM の在り方や推進方策について、SciREX 事業発足当初からの時代変化や共進化を目指す類似のアプローチ、他国の事例、共進化実現プログラムにおける取組事例等を踏まえながら検討する「共進化方法論に関する調査研究」を実施した。(4)ネットワーキングに関しては、SciREX事業の運営委員会を文部科学省とともに開催、SciREXセミナー、オープンフォーラムを開催した。また、SciREX事業に理解のある行政官を政策リエゾンに委嘱し活用、SciREX事業の成果のアウトリーチやネットワークの拡大のため、SciREX事業における各機関・拠点の取り組みや研究成果などについて、Web、セミナー、フォーラムなどを通じた情報発信を行った。

## 2. 事業の実施状況

### (1) 人材育成

#### 1) 目標と運営・活動状況

①コアコンテンツの編纂・提供に関しては、センターはコアカリキュラム編集委員会の事務局を務め、コアコンテンツの活用促進と改訂のあり方を検討する同委員会の活動を支援するという目標を掲げ活動を行った。②行政官研修の実施に関しては、各拠点等の協力を得て文部科学省とともに実施することとし、毎年度15名程度の参加を目標とした。③サマーキャンプの実施に関しては、拠点間共同プログラムとしての各拠点の協力を得て、サマーキャンプを実施することとし、サマーキャンプへの参加学生数、毎年度50名以上を目標とした。

#### 2) 目標の達成状況と成果

- ①コアコンテンツの編纂・提供に関しては、編集委員会の事務局を務め、目次構成にSTI人材、途上国とSTI政策、科学技術外交を加え、原稿を追加（最終追加は令和6年2月）、運営するSciREXポータル（<https://scirex-core.grips.ac.jp/>）でPDFファイルとして提供し活用を促進、事業終了を見通し令和7年度においては印刷物としても作成し、各拠点・関係機関・主要大学に配布した。

## 2. 事業の実施状況（その2）

- ②行政官研修の実施に関しては、コアコンテンツの内容をベースとし、講師はコアコンテンツを執筆した拠点大学の教員、行政官らが務める座学及び演習から構成される研修を実施し、概ね目標の参加者数を得た。③サマーキャンプに関しては、令和4年度から拠点プログラムの現役学生及び修了生から募集した実行委員がサマーキャンプの企画・運営を一部分担する形とした。センターが企画・運営の事務局を担い、実行委員会においてセンター教員及びスタッフの参加により企画を進め、適宜、各拠点に照会しながら企画を詰め、センタースタッフが実行委員の協力を得て運営を行い、概ね目標とする学生数の参加を得た。

### （2）研究・基盤

#### 1) 目標と運営・活動状況

- 共進化実現プログラムの運営に関しては、その円滑な推進のため、その運営をセンターが文部科学省とともに担当することを目標とし、管理運営する共進化プログラムのプロジェクト件数：10件程度（準備ステージ等を除く）／年度を目標として活動した。

#### 2) 目標の達成状況と成果

- 共進化実現プログラムの運営に関しては、第2フェーズにおいては、プログラムの運営を文部科学省とともに担当し、キックオフミーティング開催支援、アドバイザー委員とPJとの意見交換会の運営支援及びPJへのフィードバック支援、成果報告会の企画・運営、計画書や報告書等の各種様式の作成支援等を行った。また、センターの研究者を代表とする共進化実現プロジェクトを令和3年度において2件（準備ステージ1件含む）、令和4年度において1件を実施した。第3フェーズのプログラムに関しては、文科省がそのプロジェクトの提案募集・審査・PJ形成を外部シンクタンクに委託したこと等もあり、センターの関与が第2フェーズに比較して薄くなったが、第3フェーズの提案募集方法の検討等、キックオフミーティングのフォロー、アドバイザー委員とPJとの意見交換会のフォローを行った。

### （3）共進化

#### 1) 目標と運営・活動状況

- 共進化に関しては、①行政官研修の実施、②共進化実現プログラムの運営（既述）に加え、③共進化方法論に関する調査研究を実施し、行政官及び研究者の活動の参考となる情報として提供することを目標として活動した。

#### 2) 目標の達成状況と成果

- ③共進化方法論に関する調査研究に関しては、委託調査も活用しつつ実施し、その進捗状況等を運営委員会等で適宜報告した。令和3年度には、英国のArea of Research Interest（ARI）のリスト化を参照しながらSciREXとしてのARIのリスト化を試行し、行政官と研究者が政策研究課題を共創的に設定していく方法論の開発を行った。さらに、共進化実現プログラム（第1フェーズ）の追跡調査の実施・分析等を行い、共進化実現プログラム（第3フェーズ）に向けたガイダンスを整備し、第3フェーズのプログラム運営に反映された。④また、中期計画において明示的な規定はないが、科学技術イノベーション政策に関する文部科学省職員の興味関心と政策研究者のアイデアを、双方構想段階から共有する場としてブラウンバッグセミナーを計18回開催。文部科学省内の研修と連携することで行政官がより参加しやすい形とし、SciREX事業及び事業関係者の文部科学省内への紹介・周知、行政官の政策ニーズの把握の場としてきた。

### （4）ネットワーキング

#### 1) 目標と運営・活動状況

- ①事業運営委員会の運営（3回／年度）、②サマーキャンプの実施（既述）、③SciREXセミナーの開催（4回程度／年度）、④オープンフォーラムの開催（第3期で2回以上）、⑤政策リエゾン（SciREX事業に理解のある行政官をセンターが委嘱し、SciREX関係機関が主催する研究会やセミナーへの参加、共進化実現プロジェクトへの参画、事業運営に対する各種のアドバイスの提供を得る）の委嘱（30名程度）、⑥情報発信（SciREX事業における各機関・拠点の取り組みや研究成果などについて、Web、セミナー、フォーラムなどを通じた情報発信を行う）、⑦フォローアップ調査の実施を目標として活動した。

# 自己評価の概要

## 2. 事業の実施状況（その3）

### 2) 目標の達成状況と成果

- ①最終年度を除き年度3回の事業運営委員会の運営、②サマーキャンプの実施（既述）、③SciREX セミナーの延べ19回の開催、④令和3年度及び令和7年度のオープンフォーラムの開催、⑤政策リエゾンの約30名の委嘱、⑥情報発信の実施、⑦令和6年度のフォローアップ調査の実施等を行った。

## 3. 総括的な自己評価

- （1）人材育成に関しては、コアコンテンツの編纂・提供、行政官研修の実施、サマーキャンプの実施等の活動により、SciREX事業における人材育成に貢献してきた。サマーキャンプに関しては、センターにおいて拠点・関係機関の協力を得つつ毎年度開催し、実行委員方式の採用、「相談会」の設定、発表者へのフィードバック重視の審査方針の採用等、参加者にも好評を得る一定のフォーマットを確立したことは大きな成果と考える。行政官研修についても、コアコンテンツをベースとした講義の企画や演習の企画を通じ、これも一定のフォーマットを確立でき、大きな成果と考える。コアカリキュラム編集委員会の事務局を務め、コアコンテンツの編纂・提供を行い、拠点・関係機関の研究者等の協力を得て、コアコンテンツの原稿を作成し、これをウェブで提供し、さらに冊子としても印刷し、拠点・関係機関等に配布した。今後もGRIPSでホームページを維持し、提供を継続予定であり、事業終了後も引き継がれるSciREXの資産の形成に貢献したと考えている。
- （2）研究基盤に関しては、共進化実現プログラムの運営への参画、「政策のため科学」が対象とする学際的研究領域の領域の外縁、構造等を明らかにするコアコンテンツの編纂・提供等を通じて、SciREX事業における研究基盤の形成に貢献してきたと考える。共進化実現プログラムに関しては、プログラムの運営を文部科学省とともに担当し、各種会合の開催・運営支援等を行い、円滑なプログラム運営に資したのではないかと考える。
- （3）共進化に関しては、共進化の一方の担い手となる中堅・若手行政官に対する行政官研修を各拠点等の協力を得て文部科学省とともに実施、共進化実現プログラムの運営参画、共進化方法論に関する調査研究の実施、ブラウンバッグセミナーの開催等により、SciREX事業における共進化の推進に貢献してきたと考える。
- （4）ネットワーキングに関しては、運営委員会の文科省との共同事務局、サマーキャンプの実施、SciREXセミナーの開催（第3期において19回）、オープンフォーラムの開催、SciREXポータルサイトの運営、広報誌SciREX Quarterlyの発行等の情報発信により、SciREX事業のネットワーキングに貢献した。関係者の関心が高いと思われるSciREXセミナーについては、広報誌SciREX Quarterlyの記事として掲載し、セミナー参加者以外にも伝える工夫をしてきた。これまでウェブ媒体であった広報誌SciREX Quarterlyを令和6年度において過去27号分を紙媒体で印刷し、拠点・関係機関に配布、本冊子は、SciREX事業の思想とそれを踏まえた各種の活動を写真と図表を交えて分かりやすい読み物に仕上げている。次の世代の政策研究者や行政官にSciREXの活動を伝える貴重な資料となったと考える。また、SciREXポータル（<https://scirex.grips.ac.jp/>）は、SciREX事業における各機関・拠点の取り組みや研究成果などについて、Web、セミナー、フォーラムなどを通じた情報発信を行ってきたが、事業終了後も維持する予定である。
- （5）中核的拠点機能の中心的役割を担う機関としてのSciREXセンターの活動については、①SciREXセミナーの開催、オープンフォーラムの開催、広報誌SciREX Quarterlyの発行、Web、SciREXポータル（<https://scirex.grips.ac.jp/>）、メルマガ等での事業全体での情報発信、②SciREXセミナー、ブラウンバッグセミナー、サマーキャンプにおける教職員セッションの企画運営等による関係者が議論する場の設定等、③SciREXセミナーの話題提供者、ファシリテーター、コメンテーターとしての政策リエゾンの活用等の政策リエゾンネットワークを活用・拡充、④共進化実現プログラムの運営への参画等による研究活動と実際の科学技術イノベーション政策形成の現場との共進化の推進、⑤事業全体を視野に入れた活動の実施に努め、SciREX事業の円滑な実施に貢献してきた。

## 4. 事業終了後の自立化に向けた展望

- SciREXセンターの事業終了後の自立化は求められていないと理解しており、拠点の中期計画において他拠点には記載のある【自立化進捗に関する KPI】について、センターには馴染まない目標として記載しない旨を中期計画において明記している。